**地域密着型サービス運営推進会議録（第２回）**

|  |  |
| --- | --- |
| 施設名 | 社会福祉法人　双葉会　高齢者グループホーム双壽園 |
| 施設種類 | 認知症対応型共同生活介護 |
| 開催日時 | 令和２年　７月　２８日（火）　　　10時　00分　～　1１時分00 |
| 会場 | 双壽園　会議室 |
| 参加者 | 利　用　者　代　表 | ０人 |
| 利用者家族代表 | １人 |
| 地域住民代表 | ３人 |
| 有識者 | 人 |
| 高齢者お世話センター | １人 |
| 市職員 | 人 |
| 事業者 | ２人 |
| 報告事項 | グループホームの運営状況について認知症の方とのかかわり方について感染症についてその他 |
| 1．2．３．　　４． |
| 議　　題 | １．グループホームの運営状況について報告する。**現在の利用者状況**　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　９名（全て女性）平均年齢　８５歳

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 要介護度 | １ | ２ | ３ | ４ | ５ | 計 | 平均要介護度 |
| 人数 | ０ | ３ | ５ | １ | ０ | ９ | ２．７７ |

　　　　６月に要介護４（１００歳）の方が、ほぼ寝たきり状態で、入浴も困難なため、特別養護老人ホーム「双葉の丘」へ移動されたこと、７月要介護２（７３歳）女性が入居されたことを報告。　　**職員状況**　　　　　　変わりないことを報告。２．認知症の方とのかかわり方について　　要介護度（１～５）はどのような状態か、また、障害高齢者の日常生活自立度（Ｊ１～Ｃ２）、認知症高齢者の日常生活自立度（Ⅰ～Ⅿ）とはどのような状態かを資料を基に研修し、また同じ介護度、自立度であっても、それぞれの性格、環境、生活歴などによって認知症の症状にも違いがある為、それぞれに合った対応、かかわり方をみんなで話し合っていることを報告。３．感染症について　　新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が解禁されたが、その後多くの感染者が増え、徳島県でも増えていることで、当事業所では再開された面会を再度停止。入居者、職員に関しては継続し体調管理に努め入居者の検温を１日に３回行い施設内の消毒にも努め、来園者の検温、手指消毒、マスクの着用も継続し、２週間以内に県外に行かれていないかをお聞きしていることを報告。　　また、その他感染症O157、ロタウイルス、腸管アデノウイルスなどによる食中毒予防（食中毒の3原則）について研修を行い、入居者の体調管理に努めていることを報告。４．その他　　地域役員から認知症になる「まえぶれ」とはどんな症状がでるのか、どれくらいの期間それが続くのかと質問を受ける。　　お世話センターの方から物忘れが多くなること、また認知機能低下が6ヶ月ほど持続し日常生活に支障をきたす状態になると返答。　　理事長からは、病院で頭部CT撮影してもらうと脳の萎縮などの状態でわかること、また管理者より、同じものを買ったり、ぼーっとしていたりなどあるが、自分ではわからないので、家族が「いつもとちがうな」と思うことがあれば気を付けたほうがいい。環境に変化があり、悲しみ、不安、怒りなどから認知症を引き起こすこともあるが、「うつ」と見分けがつきにくいところもあると報告する。　　また、長谷川式などで認知症の進み具合を判定することもできる。認知症の種類によって、また環境や対応によって症状や進み方が違う。早い時点でみつけ服薬すること、その人に合った対応をすることで急激な進行を食い止めることもできるなど意見があった。　　地域役員からは、何か知識を持ち帰りたいと考えているので、質問させていただきました。自身も運転免許証の更新で講習と認知症テストを受けた。思ったより簡単であったが、難しいものもあった。担当の方がとてもやさしく声をかけて下さりうれしかったと話された。　　最後に、認知症は体調が崩れることが引き金になることもあるので、体調管理に努め、また、新型コロナウイルス感染症が身近になってきているが、それぞれが「うつらない、うつさない」を心掛け、また次回も元気でお会いできるようにと会議を終えた。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上 |
|  |